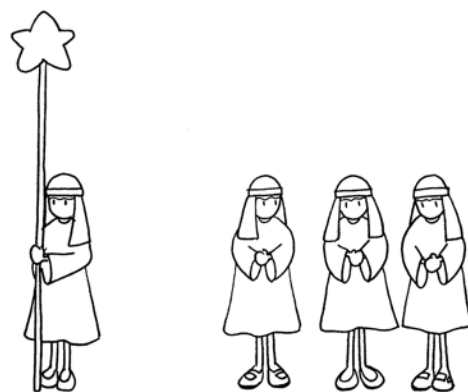


だ み よ く り に

No.756 令和6年12月1日発行



「みんなここでうまれたよ」

今年も残すところ1か月となりました。

モミジバフウの色が緑色から黄色、赤色と色づき、きれいなグラデーションが見られるようになりました。一枚一枚の葉の色が際だち、満天の星空のように見えます。子どもたちと見たら、きっと素晴らしい発想や表現が聴かれることでしょう。もし、公園や外出先にモミジバフウがありましたら、お子さまの反応を見てみるのも面白いかもしれません。そして、木々の紅葉とともにいよいよ本格的な寒さが始まりましたが、体調に変わりありませんか。体も心も温かくして、今月も健康に気をつけてお過ごしください。

子どもの表現と言えば、先日、子どものはつらつとした言葉に出会いました。ベビーカーに乗っていた子の脱げ落ちた靴を拾って届けた時、そこにいた4歳くらいのお兄ちゃんらしき子が「くつとってくれたね、ありがとうねー！ ばいばーい」と言ってくれたのです。しかも一回だけでなく、離れてからもまた同じように手を振りながら叫んでくれました。それはとてもはつらつとした無垢な言葉。心が洗われました。「こう言いなさい」と大人が言わせたものではなく子どもの心から出てきたものは全く違い、よくわかります。グッときます。

さて、もうすぐ年末年始がやってきますね。子育て、家事、仕事、勉強、介護、療養、ご自身のこと……大変な日々を積み重ねてここまで辿り着いたこと、とてつもなくすごいことです。本当に毎日お疲れ様です。年末年始はお子さまと過ごす時間がいつもより長くなるこ

とと思います。その日常が焦らず、より尊いものとなりますよう願いを込めて、この詞をご紹介します。

これを読んだ後、目の前のお子さまがこのような想いを抱いて生まれてきたと想像してみると……ここでわたしが言葉にする必要はありませんね。「困った」「他の子は」と思うような「今」の姿も意味のあることのようにも思えてきます。

うまれたよ ぼく やつとここにやってきた
まだ眼は開いてないけど まだ耳も聞こえないけど
ぼくは知っている ここが どんなにすばらしいところか
だから邪魔しないでください ぼくが笑うのを
ぼくが泣くのを ぼくが誰かを好きになるのを
いつかぼくが ここから 出ていくときのために
今からぼくは遺言する
山はいつまでも 高くそびえてほしい
海はいつまでも 深くたたえてほしい
空はいつまでも 青く澄んでほしい
そして人は ここにやってきた日のことを 忘れずにいてほしい
谷川俊太郎 作「うまれたよ ぼく」

今年も園の教育保育にご理解、ご協力くださいまして、心より感謝申し上げます。来年も引き続き、子どもたちと一緒に育てるわたしたちだからこそ同じ心持ちで、子どもたちの幸せな未来を保障できたら嬉しく思います。そして一保育者としては子どもの手本であることを忘れず、「子どもに注意するようなことはしない」と自分を律し続けて過ごしてまいります。皆さん、どうぞ良いお年をお迎えください。